

「ここ一番で祈れる人になろう」～主イエス様のゲツセマネの祈りに学ぶ～

●本日の聖書箇所 ・マタイ 26 章 31 節～75 節（新改訳第 3 版 抜粋）

26:31 そのとき、イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたはみな、今夜、わたしのゆえにつまずきます。『わたしが羊飼いを打つ。すると、羊の群れは散り散りになる』と書いてあるからです。26:32 しかしわたしは、よみがえってから、あなたがたより先に、ガリラヤへ行きます。」26:33 すると、ペテロがイエスに答えて言った。「たとい全部の者があなたのゆえにつまずいても、私は決してつまずきません。」26:34 イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。今夜、鶏が鳴く前に、あなたは三度、わたしを知らないと言います。」26:35 ペテロは言った。「たとい、ごいっしょに死ななければならないとしても、私は、あなたを知らないなどとは決して申しません。」弟子たちはみなそう言った。26:36 それからイエスは弟子たちといっしょにゲツセマネという所に来て、彼らに言われた。「わたしがあそこに行って祈っている間、ここにすわっていなさい。」26:37 それから、ペテロとゼベダイの子ふたりとをいっしょに連れて行かれたが、イエスは悲しみもだえ始められた。26:38 そのとき、イエスは彼らに言われた。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。ここを離れないで、わたしといっしょに目をさましていなさい。」26:39 それから、イエスは少し進んで行って、ひれ伏して祈って言われた。「わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願うようにはなく、あなたのみこころのように、なさってください。」26:40 それから、イエスは弟子たちのところに戻って来て、彼らの眠っているのを見つけ、ペテロに言われた。「あなたがたは、そんなに、一時間でも、わたしといっしょに目をさましていることができなかつたのか。26:41 誘惑に陥らないように、目をさまして、祈っていなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。」26:42 イエスは二度目に離れて行き、祈って言われた。「わが父よ。どうしても飲まずには済まされぬ杯でしたら、どうぞみこころのとおりをなさってください。」

26:43 イエスが戻って来て、ご覧になると、彼らはまたも眠っていた。目をあけていることができなかつたのである。26:44 イエスは、またも彼らを置いて行かれ、もう一度同じことをくり返して三度目の祈りをされた。26:45 それから、イエスは弟子たちのところに来て言われた。「まだ眠って休んでいるのですか。

見なさい。時が来ました。人の子は罪人たちの手に渡されるのです。26:46 立ちなさい。さあ、行くのです。見なさい。わたしを裏切る者が近づきました。」…

26:51 すると、イエスといっしょにいた者のひとりが、手を伸ばして剣を抜き、大祭司のしもべに撃ってかかり、その耳を切り落とした。26:52 そのとき、イエスは彼に言われた。「剣をもとに納めなさい。剣を取る者はみな剣で滅びます。26:53 それとも、わたしが父にお願いして、十二軍団よりも多くの御使いを、今わたしの配下に置いていただくことができないとも思うのですか。26:54 だが、そのようなことをすれば、こうならなければならないと書いてある聖書が、どうして実現されましょう。」26:55 そのとき、イエスは群衆に言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってわたしをつかまえに来たのですか。わたしは毎日、宮ですわって教えていたのに、あなたがたは、わたしを捕らえなかつたのです。26:56 しかし、すべてこうなつたのは、預言者たちの書が実現するためです。」そのとき、弟子たちはみな、イエスを見捨てて、逃げてしまった。26:57 イエスをつかまえた人たちは、イエスを大祭司カヤパのところへ連れて行った。そこには、律法学者、長老たちが集まっていた。26:58 しかし、ペテロも遠くからイエスのあとをつけながら、大祭司の中庭まで入って行き、成り行きを見ようと役人たちといっしょにすわった。…

26:69 ペテロが外の中庭にすわっていると、女中のひとりが来て言った。「あなたも、ガリラヤ人イエスといっしょにいましたね。」26:70 しかし、ペテロはみなの前でそれを打ち消して、「何を言っているのか、私にはわからない」と言った。26:71 そして、ペテロが入口まで出て行くと、ほかの女中が、彼を見て、そこにいる人々に言った。「この人はナザレ人イエスといっしょでした。」26:72 それで、ペテロは、またもそれを打ち消し、誓って、「そんな人は知らない」と言った。26:73 しばらくすると、そのあたりに立っている人々がペテロに近寄って来て、「確かに、あなたもあの仲間だ。ことばのなまりではっきりわかる」と言った。

26:74 すると彼は、「そんな人は知らない」と言って、のろいをかけて誓い始めた。するとすぐに、鶏が鳴いた。26:75 そこでペテロは、「鶏が鳴く前に三度、あなたは、わたしを知らないと言います」とイエスの言われたあのことばを思い出した。そうして、彼は出て行って、激しく泣いた。

◆本日の説教のポイント

①私達は、「こころ」に祈れる人になろう。(26: 35~44)

こころ一番、最も大切な場面で祈り、十字架の死という試練をも乗り越えていった主イエス様と、そうできなかったペテロ達との対比が記されている。

この時のペテロ達の信仰姿勢の問題点はどこにあったのであろうか。それは、主イエス様の言葉を素直に受け入れようとしない頑固な心にあった。「『私は』あなたを知らないなどとは決して申しません。」という言葉にその姿勢があらわれている。確かに、信仰の世界は、他者ではなく自らの意思、決断にかかっている。それと同時に、自分の罪が分かり、主イエス様を信じられるようになったのは、神様の恵みにほかならないと聖書は教える。(第1コリント 12:3、ヨハネ 16:8)しかし、いつしか神様の恵みを忘れ「私が信じたから、私が祈ったから、私が行ったから、私が、私が・・・。」と「私」の考え、感情、思いを優先させるようになり、主イエス様の言葉さえ跳ね返してしまうようになるなら、真の意味で神様に頼って祈るという事はできない。また、神様に信頼して祈る者に与えられる偉大な神様の力、恵みを体験する事もできない。

それに対して主イエス様は、自らの願いは願いとして祈りつつも、最後の最後には「わたしの願うようにではなく、あなたのみこころがなりますように」と祈られた。ここに祈りの、そして信仰姿勢の極意がある。そのような信仰姿勢をもって祈る者には、主イエス様がそうであったように、あらゆる問題を乗り越える力が神様から与えられる。

どのようにしたら、真にそのような信仰姿勢をもって祈れるようになるのであろうか。それは、ペテロ達が体験したように、様々な試練や困難の中で、自分の弱さ、醜さを深く知る事を通してである。「信じたいのに信じる事ができない、従いたいのに従っていく事ができない。」というような出来事を通して、頑なな心が砕かれ、ただただ神の恵みに頼って祈る者へと変えられるのである。自らの弱さ、醜さを悟ったペテロ達は、この後、とにかく祈る者と変えられた。そして、神の恵みを求めて祈るペテロ達には、どのような迫害も、死の力すらも彼らを押しとどめることはできなかった。

私達も、主イエス様のように自分の願いを素直に打ち明けるとともに、その願いを一旦神様にお捧げして、何が神様の御心かを求めるものとなろう。そして、神様の御心がわかったならそれに従っていく者となろう。神様はそのような姿勢で祈る私達にも、偉大な力と恵みを必ず与えて下さる。

また、主イエス様は十字架の前だけでなく、ことあるごとに祈られていた。だからこそ、こころ一番でも祈る事ができたのである。

私達も、主イエス様のように、後のペテロ達のように、こころ一番で祈れる者となれるように、日ごとに祈る者となろう。

●聖書の言葉 マタイ 26:39

わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願うようにではなく、あなたのみこころのように、なさってください。

●チャレンジしよう

①神様があなたに、今、願われていることは何だと思いますか。

②その神様の御心に従う為に、あなたは、今週どのような一歩をふみだしたいですか。

③上記で決心した事ができるように、分かち合い、神様の恵みを求めて祈り合いましょう。